

ベスト8

前を向いて遺産をみる

香川 | 香川県立坂出工業高等学校 選手…3年生4名[男子4名]



1960年代に活躍された建築家大高正人氏による人工土地に建てられた集合住宅。世界的な遺産ともいえるこの建物も50年以上を経ると、さまざまな問題に直面している。その課題を拾い出し、その解決をしっかりと具体的に表現している点が良い。

リノベーションにあたって見えてきた7つの問題は、居住環境を考える上で欠かせない要素である。その問題について適切に指摘している。

興味深いのが、木造住宅へのリノベーションである。近年、大型施設においても木造化が進んでいる。鉄筋コンクリートに劣らない耐久性と耐震性、耐火性が備わってきている木造の構築方法が進んでいる。今回、軽量化ということが焦点となり、木造住宅の提案をされているが、今後は、さまざまな用途で木造住宅の提案が進んでいくこともよいのではと考える。

最後に現状の説明があり、残したいものとそうでないものがほぼ半々なのではとのことである。その識別をしっかりとすることで、貴重な遺産を保存していくことができるのではないかと思うので、この提案が少しでも実現化への足がかりとなればと願う。

(小野)



ベスト8

語り継がれる風景 ~倉からランドスケープへ~

宮崎 | 宮崎県立日向工業高等学校 選手…3年生5名[男子5名]



案は、「地域の暮らし」と「集客」がリノベーションの可能性に挑んでいる。

かつてのような用途(米や網の保管場所)として使われなくなり、なくなるかも知れない石倉を曳家で集め、リノベーションによって、イベント会場・キャンプ場・店舗・コテージ等に造り替えての活用を提案している。石倉の新たな息吹が感じられる。

既存住宅地のほぼ中央にビューポイントを設定し、そこから石倉全体を見渡すなど「景観」づくりにも配慮がある。暮らしは「非日常」のなかで、集客は遺跡化させた「石倉」とその「景観」で捉えられた。

残念なのは、「観光」にシフトし過ぎたことだ。暮らしの非日常性のみになってしまったことである。くらしは日常である。日常としての提案、たとえば、「住宅」としての活用など考えられたのではないかと。さらに言えば、観光に特化するなら、観光的日玉が欲しかった。まち(集落?)の景観整備の延長も考えられた。

しかし、歴史的資源の活用の中、考えられた「リノベーションの可能性」は提案できたと言える。エリアマネジメントさえできれば、語り継がれる風景になるに違いない。ともかく、ベスト8おめでとう。(森崎)

The presentation board is titled "語り継がれる風景 ~倉からランドスケープへ~". It includes a map of the area, architectural drawings of various stone granary buildings (石倉A through H), and text explaining the project's goals and site-specific plans. The board is divided into sections for site overview, building types, and specific site plans.